

平成 26 年度 学校（幼稚園） 自己評価結果

関西女子短期大学附属幼稚園
園長 澤井優男

1 本園の教育目標

○建学の精神「感恩」

人はみな、数々の恩恵を享受し生かされている。この真理に目覚め、感動と感謝から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、われわれは社会に貢献できる。

「ありがとう」の出会いに気づき、感動と感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生み出されていく。この感恩の精神が本園の教育理念であり、その具現化に努める。

○保育目標「ひろい心 すこやかな身体 豊かな創造性」

- ・「ありがとう」の感謝の心、「いいよ」と言える寛大な心、「ごめんなさい」と言える素直な心を育成する。
- ・「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等の挨拶を、日々励行させる。
- ・絵画製作や音楽リズムを通して、豊かな感性と創造性を育成する。
- ・自然の中で体を使い、五感を働かせて遊ばせる活動を展開する。
- ・正課の体育や剣道を通じて、心身ともにバランスのとれた体づくりを実践する。

2 本年度、重点的に取り組む目標、計画

本園がめざす保育目標の具現化を図り、教職員共通の理解のもと、その達成に向けて研修・研さんに励みつつ保育実践にあたる。

前年度同様、①体力の向上を図り、②絵画製作や音楽活動を通して、個々の子どもの力を引き出し、③基本的な生活習慣を身につけさせ、幼児期にふさわしい活動の展開を重点目標とする。

3 評価項目(事業計画)の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
(1) 教育目標に従い子どもの実態をもとに、教育課程を作成・実践する。	○年間保育計画、各月の保育計画の見直しを図った結果、クラスの特徴を出しつつ、学年バランスのとれた活動を実践することができた。 ○学年会を毎週実施して、具体的な活動方法について話し合い、学年ごとで特徴のある保育を推進することができた。
(2) 幼稚園の状況をふまえて、中・長期的な計画を策定する。	○本園のさらなる発展を目指して、保護者をはじめ地域社会の要望に応えるための新しい企画を画策した。 ○学内の大学、短大、高校に協力を仰いで、家庭の教育力向上を目指し、また充実した施設と恵まれた自然環境を積極的に活用して、園児や保護者の満足度を向上させた。
(3) 教育力の向上のため、研修の充実を図る。	○教職員が保育に必要な知識や技能を深めるため、種々の研修会に積極的に参加できる環境を整えた。 ○園内研修も積極的に行い、研修報告や反省会を随時行って研修内容の共有化を図った。また、大学、短大、高校との連携教育を、今年も継続することができた。
(4) 園内の施設・設備、安全管理の充実を図る。	○本園の特色でもある山の園庭での遊びにより、園児の活動力が増し、体力及び情操面での活性化が図れた。 ○不審者対応として、所轄の警察や教育委員会から逐次出される情報や実態をふまえながら、登降園のときの安全に配慮することができた。

(5) 保護者の要望や意見には、適切な対応を図り、満足度の向上に努める。	<p>○子育て支援事業である未就園児クラスの増設を企画して、保護者の要望に応える努力をした。</p> <p>○園児の生活を基本に置きつつ、ゲームや身体を使った遊びで、数や文字感覚を楽しく養うことができた。また、小学校生活を考慮に入れた取り組みも推進できた。</p>
--------------------------------------	--

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>子ども・子育て支援新制度の動向を踏まえつつ、幼稚園の教育課程の内容を再確認し、教職員間で共通理解を図り、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について認識を深めることができた。</p> <p>また、教職員全員が積極的に研修会に参加し、自己研さんに励むことで、保育力の向上が見られた。そして、評価制度における各人との話し合いによって、反省点も明確になり、次年度への努力目標につなげることもできた。</p>

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
(1) 保育と環境、施設・設備の見直しと改善	<p>○恵まれた環境を活かして、教職員、友達と関わりをもちながら、心の響き合いを深め、自発的な遊びを通じて、人間形成の基礎づくりと生きる力を培う。</p> <p>○週始めに実行している安全点検を徹底して、教職員全員が危険意識をもって安全対策に留意する。</p>
(2) 研究と実践について	<p>○時代の変化に適切に対応できる幼稚園として、子ども・子育て支援新制度の方向性を検証しつつ、小学校以降の生活や学習の基盤育成につなげることも考慮して、豊かな環境を通じて、特色ある教育を企画・実践する。また、研修内容を共有しながら、実際の保育に活かしていく。</p>
(3) 園に対する保護者の満足度の把握	<p>○質の高い保育を迫及するとともに、園児や保護者、そして地域からの厚い信頼と、評価を維持・向上していくためには、常に園の運営や教育の両面について、謙虚に点検・評価していく。また、地域に根ざした幼稚園として、家庭との連携を深めながら、顔の見える幼稚園づくりに取り組んでいく。</p>

6 学校関係者評価

<p>教育理念・教育目標のもと、子どもたちや保護者の意見を受け止めながら、新たな取り組みを検討し、実践していることに感謝している。</p> <p>教職員の対応も早く、きめ細やかなため、園児及び保護者にとって、園が一層過ごしやすい場所となっているように感じる。また、そのような環境が、教育理念・教育目標の浸透や落ち着いた園生活に大きく寄与しているものと思われる。</p> <p>集団としての行動を大切にしつつ、一人一人への丁寧な対応をとっている。</p> <p style="text-align: right;">【保護者会役員とクラス委員他、保護者アンケート調査の自由記述から】</p>
--